

道徳科学習指導案

指導者

- 1 日時 令和6年12月4日(水) 5校時
- 2 学年 自閉症・情緒障害特別支援学級 第5学年(3名)
- 3 主題名 「相手の立場に立って」 [B親切・思いやり]

4 ねらい

困っているおばあさんの姿を見て段ボール箱の片付けを手伝った「わたし」の心の揺れを考えることを通して、相手の立場や気持ちを考えて行動する素晴らしさや見返りのない親切の大切さを理解し、誰に対しても温かい心で親切にしようとする心情を育てる。

- 5 教材名 「くずれ落ちた だんボール箱」
〔小学道徳 生きる力5〕 日本文教出版

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目[B親切・思いやり]「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」を受けて設定されたものである。内容項目の概要には「自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては、望ましい人間関係を構築することはできない。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。」と記されている。つまり、相手の立場や気持ちを想像したうえで、よい励ましや援助を行うことのできる、人間としての生き方が期待されているのである。

高学年のこの時期は、相手のおかれている状況や立場を考えることができるようになる児童が増え、推理的思考もできるようになる。また、価値観も育ち、自分だけで意思決定ができるようになってくる。しかしながら、自分のおかれた状況が不利になったり、自分を非難されたりした時に心の中に葛藤が生まれ、行動に移すことに、迷いが生じたりする。

そこで、どんな状況下でも、相手の立場に自分を置き換え、他者に積極的に関わることができるような態度を育てていくことの大切さを考えることができると考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、孫が店の段ボール箱の山を崩してしまい、困っているおばあさんの代わりに整理する主人公の「わたし」と友達の友子が登場する。事情を知らない店の人に叱られた後、戻ってきたおばあさんにお礼を言われるわたしの気持ちを追いながら、心の葛藤に共

感させていく。

指導に当たっては、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換え、推し量って想像し、どのような状況下においても、親切の価値を理解したうえで、よりよい励ましや援助を行っていくことのできる心情を大切にする。

そのために次の3点に留意する。

- ① 展開前段では、状況を把握する基本発問として「おばあさんの代わりに一つ一つ丁寧に段ボール箱を積み上げた私は、どんな気持ちだったでしょう。」と問い、困っているおばあさんの立場になって考えている私の気持ちに共感させる。
- ② 中心発問では、「『いいえ、いいんです…。』と言って立ち去った私は、どんなことを考えたでしょう。」とし、事情を知らない店の人に誤解された私のやり切れない思いに共感させながら、それでも最後まで一つ一つ片付けた私の内面を捉えさせる。
- ③ 展開後段では、店の人からの手紙の内容を聞いた私の気持ちを考えさせる。「スーパーマーケットの店員さんが、どんなことに対して『ありがとう』と言っているのか」、「手紙の中の『あたたかい気持ち』とは何か」等を考えさせることにより、一層ねらいとする価値に気付かせていく。

7 準備物 ・挿絵 ・ノート ・モニター

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	○留意点●評価
導入 （五分）	1 事前アンケートの結果を示して、課題を設定する。	○アンケートの結果を見ましょう。 ・みんなは、「親切」をこんなふうに考えているんだな。 ・親切の大切さは分かっているけど、時には難しいこともあるよなあ。	○モニターでアンケート結果を提示し、自由に感想を出させることで、主題への意欲と関心をもたせる。 ○本時のめあてを提示する。
		「本当の親切」とはどんなことでしょう。	

2 教材「くずれ落ちた段ボール箱」を読んで考え、話し合う。

- 「わたしたち」は、どんな気持ちでくずれ落ちた段ボール箱を片付けているのでしょうか。
 - ・おばあちゃんが困っているから、助けてあげたい。
 - ・おばあちゃん喜んでくれるかな。
 - ・お孫さん、無事に見つかったかな。
 - ・すごくいい気持ちだな。
 - ・私たちがやっていることが少しでも役に立てばいいな。
- 「困った子たちね。」と店員さんに注意された2人は、どんなことを考えたでしょう。
 - ・何も悪いことはしていない。
 - ・なんで怒られるんだ。
 - ・訳を知って欲しい。
 - ・手伝ってたのに怒られるなんて納得できない。
 - ・悔しい、腹が立つ。
 - ・理由を聞いてくれてもいいのに、ひどいな。
 - ・手伝わなければよかった。
 - ・早く帰ってこないおばあさんが悪い。

【中心発問】

『「いいえ、いいんです…。』
と言って立ち去った私は、
どんなことを考えた
でしょう。』

- ・悲しかったけど、人には親切にしないといけない。
- ・おばあさんが喜んでくれたんだからいいか。
- ・おばあさんの役に立てたんだから、別に気にしないでおこう。

【考えを深める発問】

○店員さんに怒られたのに？

- ・親切にできた自分がうれしい。
 - ・おばあさんに心配を掛けたくない。
- おばあさんの顔が浮かんだ私は、どんなことを思ったでしょう。
- ・店の人に分かってもらえて嬉しい。
 - ・やはり、お手伝いをしてよかった。

○困っているおばあさんの立場になって考えている私の気持ちに共感させる。

○親切が誤解されたことを踏まえ、嫌な気持ちになった2人の気持ちを捉えさせる。

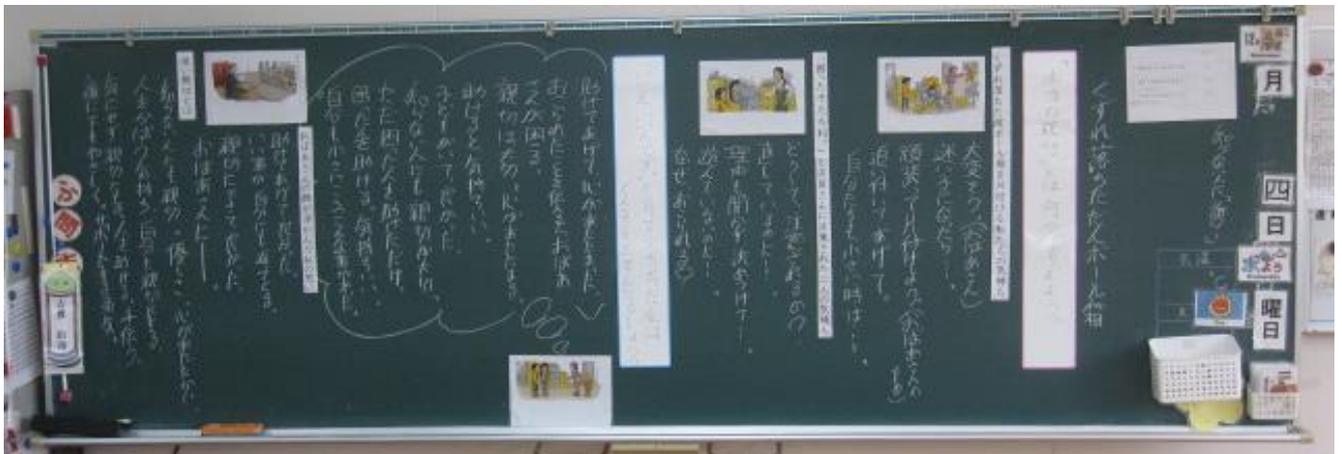
○ノートに自分の思いを書かせ、交流をさせる。

○店の人に誤解され叱られた私のやり切れない気持ちにも共感させながら、段ボール箱を片付け終え立ち去る時の私の気持ちを捉えさせる。

○手紙が来なくても（誤解が解けなくて

<p>展開後段(五分)</p>	<p>3 自分の生活を振り返って考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良いことをした。 ・これからも、困っている人がいたら助けたい。 <p>○「親切」にする上で、大切なことはどんなことでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人の身になって、だれにでも親切にする。 ・人が見ていなくてもする。 ・自分からすすんで行動する。 	<p>も)、わたしと友子の行為はとても素晴らしいことであることを捉えさせる。</p> <p>【キーワード】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも ・見ていなくても ・自分から進んで </div> <p>●人に認められなくても、相手の気持ちや立場を考え、誰に対しても温かく接することの大切さに気付くことができたか。</p> <p>○相手のことを思い行動することは親切な行為であるが、状況によっては、本当に相手のためになる行為であったかどうかについて、「聞く」「知る」という相手の思いを大切にすることも必要であることにも触れる。</p>
<p>終末(五分)</p>	<p>4 学習の振り返りをする。</p>	<p>○自分から進んで親切にできたことを思い出し、今日の学習を振り返りましょう。</p>	

9 板書



10 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 実態調査を生かし、発問を構成したことで、自分自身との関わりから生活を振り返り、発言を豊かに引き出した。
- 児童は自分の経験を基に、色々な思いを発表した。少しずつ相手の立場になった考えがもてるようになってきた。
- 終末の「深い親切」とは何なのかという思考が深まらなかった。補助発問をもっと準備しておくべきだった。
- 展開の後段では、価値について自己の思いを語れるような発問に繋げることが難しかった。

11 今後に向けて

- ・実態調査で「自分が知らない人へも親切にできる。」と答えていない児童が、本時でどう変容したかを把握し、事後の指導に生かす必要がある。
- ・切り返しの発問を児童に応じて、そして授業展開に応じて、練り直していく。